



## Fore Please / 世界ゴルフ

# 識聞録

ゴルフビジネスのプロが、30年以上回って見て聞いて感じた世界のゴルフ文化をお届け。第23回はシニアツアーのお話です。

### 50歳で脱サラして プロ宣言したシニア

メジャー大会が立て続けに開催される初夏のイギリスでは、全英オープン(ザ・シニアオープン)の翌週に全英オープン選手権・プレゼンテッド・バイ ロレックス)が名門サンディングデールのオールドコースで行われました。毎年プロアマの大会も開催され、メジャー大会ならではの華やかで威厳のある雰囲気にも包まれています。前年度優勝したベルンハルト・ランガーや英国のコリン・モンゴメリーなどもトップ争いをし、レギュラーツアーでも活躍しているM・A・ヒメネスも上位入賞するなど試合展開も大変盛り上がりました。

彼のように、シニアプレーヤーになつてから開花する選手は一握りしかいませんが、彼の話を聞きながら北アイル

ランド出身のシニアプロ、ゴードン・パークヒルの事を思い出しました。1945年生まれですから、今年で70歳になります。アマチュアとしての競技経験はあ

るものの、プロツアーでの経験もない中で、50歳の時に脱サラ、プロ宣言をしてヨーロッパツアーのシニアトーナメントに参戦

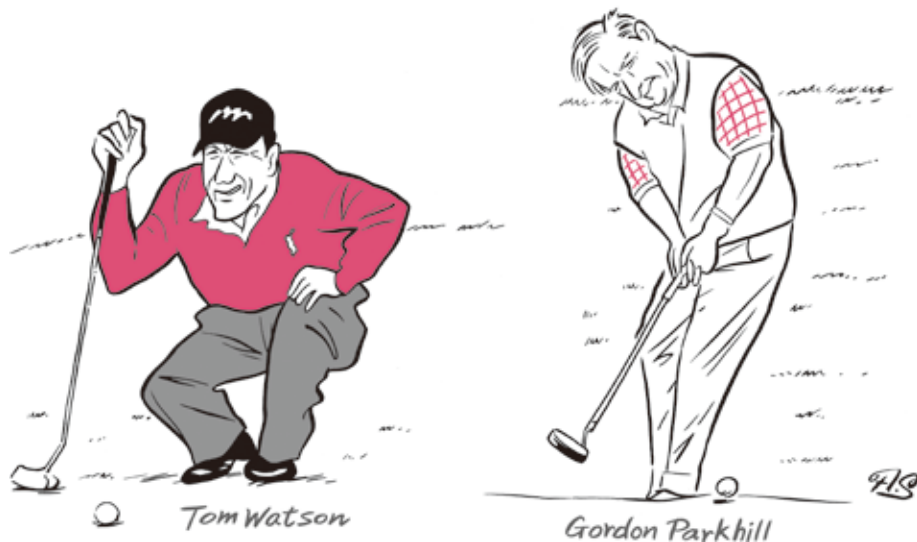
しました。彼の地元は北アイルランドで開催された2002年の全英シニア(日本の須貝昇が優勝した大会で61位に入りました。

### トム・ワトソンとの ラウンドが格別な味。

ゴードンの話は彼の息子さんから聞いたのですが、プロと言ってもトーナメントの賞金で生活で食べていけるほどの成績ではなかったようで、トーナメントに参加しても、毎日安いB&Bのような宿舎で、夕食はトーストにベークトビーンズといった貧しい遠征生活でした。でも彼にとっては、決してラクではない生活を続ける苦勞より、シニアツアーでスタープレーヤー達と一緒にラウンドできる喜びが勝つたそうです。毎日が夢のようだったとか。確かにシニアツアーと言ってもちょっと前まではレギュラーツアーで活躍していたレジェンド達が

Vol.23  
シニアツアー

## 積年の夢を 叶えられるのも シニアツアーの 醍醐味。



Tom Watson

Gordon Parkhill

名を連ねています。2002年の全英シニアではトム・ワトソンと同組だったそうで、地元のゴルフ場でトムと一緒にラウンドする事は格別だったでしょうね。プロ選手である以上、ゴルフトーナメントで賞金を稼ぐ事が第一義かとは思いますが、ゴードンのように純粹にゴルフをする喜びは忘れてはいけませんね。

さて、今年優勝したマルコ、レギュラーツアーでは通常413試合に出場はしているものの、ベストフイニッシュは1995年のミルウォォーキーオープンの2位だったそうです。怪我にも悩まされて背中手術を2回受けるなど、苦勞人プロが勝ち取った優勝は、若手の優勝とは一味もふた味も違ったことでしょう。積年の夢が叶った瞬間を見ることが出来るのも、シニアツアーの醍醐味ですね。

### ゴルフビジネスの プロフェッショナル

神野方仁(じんの・みちひと)



1956年生まれ。テレ・プランニング・インターナショナル株式会社代表取締役社長。国内外のさまざまなスポーツビジネスに関わり、中でもゴルフはマスターズのようなメジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中 Fast Track Michi's Diary/www.tpi-j.co.jp/ceo\_blog/

イラスト/ソリマチアキラ